

令和8年度予算案のEBPM「「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」策定後の具体的な取組推進事業」

課題データ

こどもの誕生前から幼児期までは、生涯にわたるウェルビーイングの向上にとって特に重要な時期である。一方で、児童虐待による死亡事例の約半数が0～2歳であったり、就園していないこどもは家庭環境により他のこどもや大人、社会や自然等に触れる機会が左右されたりするなど、誰一人取り残さないひとしい育ちの保障に向けては様々な課題がある。さらに、誕生・就園・就学の前後や、家庭・園・関係機関・地域等の間に切れ目が多いという課題もある。こうした現状や課題があることを踏まえ、「はじめの100か月」の大切さを社会全体で共有するとともに、関連施策を強力に推進するための羅針盤が必要であることから、令和5年12月に「はじめの100か月の育ちビジョン」が策定された。本ビジョンを踏まえて、全てのこどもの「はじめの100か月」の育ちを保障し、生涯にわたるウェルビーイングの向上を図っていくことが必要である。

事業

「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」 策定後の具体的な取組推進事業

令和7年度補正予算：1.6億円
令和8年度当初予算案：35百万円

「はじめの100か月の育ちビジョン」を社会全体の全ての人と共有し、本ビジョンを踏まえた取組を推進するため、「1. 『はじめの100か月の育ちビジョン』の普及啓発」、「2. 『はじめの100か月の育ちビジョン』地域コーディネーターの養成」、「3. 『はじめの100か月』の育ちの科学的知見に関する調査研究」を3年間で集中的に実施。これらの実施と3つの施策の相互の有機的な連携により、「はじめの100か月の育ちビジョン」を非常に大切だと思う人の割合を増加させることを目指し、全てのこどもの「はじめの100か月」の育ちを社会全体で支援・応援することで、本ビジョンの実現を図る。

※アウトプット、アウトカムの（）内は直近の実績値

EBPM 指標	アウトプット	「はじめの100か月の育ちビジョン」に関する 動画やパンフレット、ガイドブック等の数 2025年度 25件 (21件)	「はじめの100か月の育ちビジョン」を踏まえた 活動を行うコーディネーターを養成する モデル事業を行った実証地域の累計数 2025年度 20件 (10件)	「はじめの100か月の育ちビジョン」を 踏まえた調査研究の実施件数 2025年度 3件 (3件)
	短期 アウトカム	「『はじめの100か月の育ちビジョン』を 知っている」と回答した国民の割合の増加 2025年度 50% (22.7%)	「はじめの100か月の育ちビジョン」を踏まえた 活動を行うコーディネーターを養成する 研修の受講者数の増加 2025年度 130人 (72人)	「はじめの100か月の育ちビジョン」を 踏まえた調査研究結果についての メディアにおける紹介事例の増加 2025年度 10件
	中期 アウトカム	「『はじめの100か月の育ちビジョン』が非 常に大切だと思う」と回答した 国民の割合の増加 2028年度 80% (17.8%)	コーディネーターが関わった、 乳幼児やその保護者と地域の人々をつなぐ イベント等の数の増加 2028年度 550件 (147件)	「幼児期までのこどもの育ちに関する科学的知見 を見たり、聞いたりしたことがある」と回答した 国民の割合の増加 2028年度 40%
	長期 アウトカム	「『はじめの100か月の育ちビジョン』を踏 まえた行動を取ったことがある」と回答した 国民の割合の増加 2033年度 50%	「こどもと関わる活動に参加している」 と回答した地域の人々の割合の増加 2033年度 80%	「幼児期までのこどもの育ちについて、信頼 できる情報が得られている」と回答した 国民の割合の増加 2033年度 60%

目標

こども・若者の権利保障と
その視点の尊重、意見聴取と対話

良好な成育環境の提供

すべてのこども・若者の
健やかな成長の保障

結婚・子育てに関する希望の形成と
その実現を阻む隘路の打破

こども・若者の幸福な生活 / 少子化トレンドを大きく変える / 未来を担う人材の育み